

PAH2（警察犬臭気選別第2作業）

科目、配点 [120点満点]

A 服従作業（50点）

科目1	紐無脚側行進（声符のみ）	（10点）
科目2	常歩行進中の停座から遠隔指導による伏臥及び招呼	（10点）
科目3	ダンベル持来（650g以上）	（10点）
科目4	休止（5分）	（10点）
科目5	立止時の銃声テスト及び対人態度	（10点）

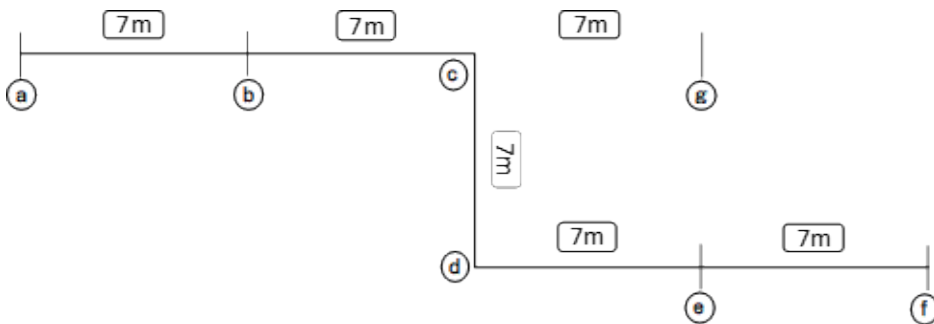
B 第三者の直付臭による臭気選別作業（70点）

連続3回正解	（70点）
3回正解、1回不正解	（60点）
2回正解、2回不正解	（40点）
3回不正解	（不合格）

実施要領

A 服従作業

コース図



科目1 紐無脚側行進（声符のみ）

声符 「アトへ」×9（出発、コーナー×4、回転×2、反転、終点）、「スワレ」

①点で紐無し（紐は指導手の肩に掛ける。）で脚側停座させ、審査員の指示により常歩で進み、②点で左回転し（指導手は直径50cm以下で回転する。）、引き続き常歩で③点で右折した地点から緩歩で④点に進み左折した地点から常歩で⑤点で右回転し（指導手は直径50cm以下で回転する。）、引き続き常歩で⑥点まで進み反転し、止まることなく速歩で④点で右折、③点で左折し、①点に戻り反転した地点で脚側停座させる。

科目2 常歩行進中の停座から遠隔の伏臥及び招呼

声視符 直接脚側停座の場合「アトへ」、「スワレ」、「フセ」、「コイ」、「アトへ」、「スワレ」

対面停座の場合 「アトへ」、「スワレ」、「フセ」、「コイ」、「スワレ」、「アトへ」、「スワレ」

①点で脚側停座させ、審査員の指示により常歩脚側行進で進み、②点で指導手は歩度を変えずに犬に停座を命じ、振り返ることなく③点まで進み犬と対面する。審査員の指示により遠隔指導で犬を伏臥させ、審査員の指示により犬を招呼する。犬は直接脚側停座するか、対面停座をしてから審査員の指示により脚側停座させる。審査員の指示により①点に戻る。

科目3 ダンベル持来（650g以上）

声視符 直接脚側停座の場合「マテ」、「モッテコイ」、「コイ」、「アトへ」、「スワレ」、「ダセ」

対面停座の場合 「マテ」、「モッテコイ」、「コイ」、「スワレ」、「ダセ」、「アトへ」、「スワレ」

指導手はダンベルを持ち①点で脚側停座させる。指導手は本科目終了までその場から移動してはならない。審査員の指示により犬に待てを命じ、ダンベルを7m以上投げる。ダンベルを投げる時指導手は1歩踏み出してもよいが、速やかに元の姿勢に戻さなければならない。10秒後、審査員の指示により持来させる。犬がダンベルを咥えたら犬を招呼し、直接脚側停座するか、対面停座をさせ審査員の指示によりダンベルを受け取る。対面停座をした場合は、審査員の指示により脚側停座させる。

科目4 休止（5分）

声視符 「フセ」、「マテ」、「スワレ」
所定の地点で紐無し（紐は指導手の肩に掛ける。）で脚側停座させ、審査員の指示により犬に休止を命じ、審査員の指示により犬に待てを命じ、指導手は常歩で振り返ることなく指定された物陰へ隠れる。5分後、審査員の指示により指導手は常歩で犬の左側から後方を回り犬のもとへ戻り、審査員の指示により脚側停座させる。

科目5 立止時の銃声テスト及び対人態度

所定の地点で紐付きで立止を命じ、指導手は犬の体に触れることなく側に立つ、約10m離れた地点でピストル（陸上競技のスタート用）を発砲し、音響に対する態度を見る。1回で判定困難な場合は再度発砲する。対人態度等は、審査員が立止している犬の近くに寄り、指導手と話をするなどしながら犬の態度を観察する。

B 第三者の直付臭による臭気選別作業

- 臭気選別作業は4回行うが、連続3回成功した場合は4回目を省略する。
- 1回の作業時間は1分間。指導手が試験要員より原臭白布を受け取ってから、犬の四肢がスタートライン越えた時点までとする
- スタートラインから10m前方の地点に、選別台を横位置に配置する（3mラインは設けない。）。
- 選別台に置く選別物品は、白布（縦約20cm、横約10cm）を使用し、本臭（指導手以外の第三者の直付臭）を付けた選別物品1点と誘惑臭（指導手及び本臭の第三者とは別人の第三者2名の直付臭を各2点）を付けた選別物品4点とする。
- 本臭を置く位置は、審査員が決定し、指導手には伝えない。
- 選別台に白布を置くのは、試験要員とし、ピンセット等を使い白布に他の臭気を付けないようにして、選別台の穴の中に軽く押し込む。

実施要領

- 1 指導手は、スタートラインの手前で選別台に背を向け脚側停座させ、紐を外す（紐は肩から掛ける。）。
- 2 審査員の指示により、選別台方向に向き、試験要員から原臭の白布を受け取り、犬に嗅がせ、「捜せ」、「持って来い」等の命令で出発させる。犬が白布を咥えたら招呼してもよい。
- 3 犬が白布を咥え持来したら、指導手は犬を対面停座又は直接脚側停座させて白布を受け取ることが原則であるが、犬の四肢がスタートラインを越え、かつ、白布もスタートラインを越えた位置に犬が落した場合は、雨、風、その他の条件により審査員の指示で指導手が拾うことができる。
- 4 白布を犬から受け取ったら、原臭白布と共に審査員に提出する。
- 5 再度、選別台に背を向け脚側停座させ、2回目以降を1回目と同様に行う。